

国語 第3学年 きょうみを持ったことをしょうかいしよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の10月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

接着剤の今と昔について、興味をもったことを紹介する目的で中心となる語や文を選び、要約する。時代ごとの説明から内容を選び、紹介の中心が変わらないよう必要な内容を選ぶ。単元の終わりに残すのは、目的に合わせた要約と紹介メモ。中心、残す語句、省く細部、短くしても変わらない内容を確認する。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)ウ	ウ 目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)ア	ア 記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。

単元の目標

紹介の中心と事例の関係、全体と中心の関係を理解できる。紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①紹介の中心と事例の関係、全体と中心の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有している。（C(1)ウ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全8時間（読む8）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、接着剤の今と昔で興味をもったことを出す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○段落の内容を短く表し、比較する事柄を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3	○紹介の中心を選び、関係する語句や文を探す。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○残す内容と省く細部を考え、意味が変わらない要約にする。	思①（発言・学習記録）
	5	○要約を原文と照らし、条件や比較の取り違えを直す。	学習状況を見て支援する。
	6	○要約を使って紹介し、友達が関心をもったことを聞く。	学習状況を見て支援する。
	7	○交流を受けて必要な説明を見直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	8	○目的に合わせて要約した読み方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「紹介したいことが伝わるように短くするなら、どの説明は残す必要ですか。なくすと意味が変わる言葉はどれですか」 【めあて】接着剤の今と昔について、興味をもったことを紹介する目的で中心となる語や文を選び、要約する。 〈予想される児童の反応〉 ・昔と今を比べる言葉を消すと違いが伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「紹介したいことが伝わるように短くするなら、どの説明は残す必要ですか。なくすと意味が変わる言葉はどれですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・昔と今を比べる言葉を消すと違いが伝わらない。 ・面白い細部でも中心と関係が薄ければ省ける。 ・短くしすぎると何の説明か伝わらない。	紹介したい中心を先に文で決め、関係する説明に印を付ける。要約文を原文と比べ、今と昔、材料や用途などの対応を取り違えていないか確かめる。 想定する難しさ：各段落の最初の文だけをつなぐ。重要な条件を消して意味を変える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達のことを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・短くしすぎると何の説明か伝わらない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「紹介したいことが伝わるように短くするなら、どの説明は残す必要ですか。なくすと意味が変わる言葉はどれですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、各段落の最初の文だけをつなぐ。重要な条件を消して意味を変える。この場合は、紹介したい中心を先に文で決め、関係する説明に印を付ける。要約文を原文と比べ、今と昔、材料や用途などの対応を取り違えていないか確かめる。おおむね満足できる状況は、紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 目的に合わせた要約と紹介メモ。中心、残す語句、省く細部、短くしても変わらない内容を確認する。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_3_202503.docx)／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) LINEオープンチャット
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo みえ先生ラボ

